

日本農業気象学会 2026 年度総会 議事要旨

日時：2026 年 3 月 6 日（金）14：00～16：00

場所：リモート（ライブ配信）による開催

会長挨拶 荊木会長

議長選出 嶋津光鑑会員（東海・北陸支部）を選出

1. 2025 年度活動報告

1.1 事務・事業報告

1.1.1 役員等の交代

→資料に基づき報告された。

1.1.2 会員数の動向

→資料に基づき報告された。

1.1.3 研究集会・会議等の開催

→資料に基づき報告された。

1.1.4 各種事業の推進

→資料に基づき報告された。

1.1.5 編集委員会活動報告

→資料に基づき報告された。

1.1.6 学会賞の選考経過

→資料に基づき報告された。

1.1.7 永年功労会員表彰の選考経過

→資料に基づき報告された。

1.1.8 フェロー称号授与

→資料に基づき報告された。

1.1.9 支部活動報告

→資料に基づき報告された。

1.1.10 研究部会活動報告

→資料に基づき報告された。

1.2 その他

→寄付に関する会員からの意見への対応が荊木会長より説明された。

2. 審議事項

2.1 2025 年度一般会計決算報告（案）

→原案どおり承認された。

2.2 2024 年度特別会計決算報告（案）

→原案どおり承認された。

2.3 会計監査報告（案）

→原案どおり承認された。

－2025 年度一般会計決算報告（案）・2024 年度特別会計決算報告（案）・会計監査報告（案）の承認－

2.4 2026 年度事業計画（案）

2.4.1 事業計画

→原案どおり承認された。

2.4.2 2026 年度以降の学会活動に関わる事項

→原案どおり承認された。

2.5 支部活動予定（案）

→原案どおり承認された。

2.6 研究部会活動予定（案）

→原案どおり承認された。

－2026 年度事業計画（案）の承認－

2.7 2026 年度一般会計予算（案）

→原案どおり承認された。

－2026 年度一般会計予算（案）の承認－

2.8 2026 年度特別会計予算（案）

→原案どおり承認された。

－2026 年度特別会計予算（案）の承認－

議長解任

閉会

資料修正（添付の総会資料は修正済）

・ 2.2 2024 年度特別会計決算報告(案)

| 修正前 | 修正後 |
|--|--|
| 支出 予算 物品費 10,509 円 消耗品費 0 円 | 支出 予算 物品費 10,509 円 <u>消耗品費</u> 10,509 円 |
| 支出 旅費 382,120 円 旅費 530,000 円 | 支出 旅費 382,120 円 <u>旅費</u> 382,120 円 |

・ 2.7 2026 年度一般会計予算(案)

| 修正前 | 修正後 |
|--|--|
| 支出 予算 事務費 110,000 円 理事会開催費 20,000 円 | 支出 予算 <u>事務費</u> 290,000 円 理事会開催費 200,000 円 |
| 支出 単年度合計(予備費除く) 6,946,200 円 | 支出 <u>単年度合計(予備費除く)</u> 7,126,200 円 |
| 支出 予備費 694,620 円 | 支出 <u>予備費</u> 712,620 円 |
| 支出 単年度合計(予備費含む) 7,640,820 円 | 支出 <u>単年度合計(予備費含む)</u> 7,838,820 円 |

日本農業気象学会 2026 年度

総会資料

日時：2026年3月6日（金）14時00分～16時00分

場所：リモート（ライブ配信）による開催

接続 URL <https://us06web.zoom.us/j/81588908414?pwd=JIcklFUjYiDwFkJV0hmFytLckGktJI.1>

パスコード 123202

日本農業気象学会 2026 年度総会 議事次第

開 会

会長挨拶

議長選出

1. 2025 年度活動報告

1.1 事務・事業報告

| | |
|---------------------|---------|
| 1.1.1 役員等の交代 | 3 |
| 1.1.2 会員数の動向 | 3 |
| 1.1.3 研究集会・会議等の開催 | 3 |
| 1.1.4 各種事業の推進 | 3 |
| 1.1.5 編集委員会活動報告 | 4 |
| 1.1.6 学会賞の選考経過 | 5 |
| 1.1.7 永年功労会員表彰の選考経過 | 6 |
| 1.1.8 フェロー称号授与 | 6 |
| 1.1.9 支部活動報告 | 7 |
| 1.1.10 研究部会活動報告 | 8 |
| 1.2 その他 | 8 |

2. 審議事項

| | |
|--|----------|
| 2.1 2025 年度一般会計決算報告（案） | 9 |
| 2.2 2024 年度特別会計決算報告（案） | 12 |
| 2.3 会計監査報告（案） | 13 |
| — 2025 年度一般会計決算報告（案）・2024 年度特別会計決算報告（案）・ 会計監査報告（案）の承認 — | |
| 2.4 2026 年度事業計画（案） | |
| 2.4.1 事業計画 | 15 |
| 2.4.2 2026 年度以降の学会活動に関わる事項 | 15 |
| 2.5 支部活動予定（案） | 18 |
| 2.6 研究部会活動予定（案） | 19 |
| — 2026 年度事業計画（案）の承認 — | |
| 2.7 2026 年度一般会計予算（案） | 20 |
| — 2026 年度一般会計予算（案）の承認 — | |
| 2.8 2026 年度特別会計予算（案） | 21 |
| — 2026 年度特別会計予算（案）の承認 — | |

議長解任

閉 会

1. 2025 年度活動報告

1.1 事務・事業報告

1.1.1 役員等の交代

- 1) 学会賞審査委員会委員長に互選で大上博基会員が就任
- 2) 支部長の交代 支部異動のため、東北支部 井上 聡会員 が退任し、松嶋卯月会員が就任
- 3) 会長指名理事（総務担当）の退任 井上 聡会員
- 4) 会長指名理事（研究交流活性化担当）の退任 岩田拓記会員

1.1.2 会員数の動向(2025年12月31日現在)

正会員 351 (内 海外 4) (-13)

学生・ポスドク会員 60(内 海外 1) (+10)

シルバー会員 34 (内 海外 0) (+6)

購読会員 59 (内 海外 0) (-1)

賛助会員 19 (内 海外 0) (-1)

名誉会員 9 (内 海外 0) (0)

海外特別会員 71 (+1)

合計 603 (内 海外 5) (+2)

()内は、2024年12月31日時点と比較した増減数

1.1.3 研究集会・会議等の開催

- 1) 2025年全国大会および International Symposium on Agricultural Meteorology (ISAM) 2025 : 2025年3月13日～16日に東海大学熊本キャンパス（熊本市）にて開催
- 2) 2025年度総会：2025年3月7日にリモート（ライブ配信）による開催
- 3) 2025年度理事会：2025年4月17日（第1回）、7月3日（第2回）、9月30日（第3回）、12月25日（第4回）にオンラインまたは対面とオンラインのハイブリッドにて開催

1.1.4 各種事業の推進

1) 学会活動の活性化

- (1) 学会ホームページにより情報提供を行った。
- (2) 会員サービスとして、メーリングリストを利用した事務連絡等を実施した(農業気象学会メール広報)
- (3) 2024年に続き 2025年全国大会においても学会員のアテンドによる高校生ポスター発表を実施した。高校生企画を全国大会の通常企画として位置付け、経費は大会開催経費に含めることを決定した。また、高校生および高校教員に向けて農業気象学を学べる大学リストが作成され、学会ホームページで公開された。
- (4) 日本農学会シンポジウム(2025年10月4日開催)において、谷 晃会員による講演「人と植物の健康に影響を及ぼす植物の微量気体の交換」が行われた。
- (5) 農業気象分野に関する出前講座ワーキンググループにおいて、提供可能な講座タイトルおよび講師のリストを更新し、学会ホームページおよびメーリングリストで周知するとともに、理事の協力を得て、公設試験研究機関に対するアナウンスを行った。出前講座には県、民間から3件の問い合わせがあり、応募資格が合致した2件についてそれぞれ1回実施した。

2) 学会誌等の出版

- (1) 学術誌「Journal of Agricultural Meteorology」：第81巻1号～第81巻4号
- (2) 学術誌「生物と気象」：第25巻1号～第25巻4号

- 3) 日本農業気象学会賞の審査
- 4) 日本農業気象学会永年功労会員の審査
- 5) 日本農業工学会賞に平野高司会員を推薦，日本農業工学会フェローに横沢正幸会員，石郷岡康史会員，佐々木華織会員を推薦
- 6) 支部大会等の推進（「支部活動報告」の通り）
- 7) 研究部会，若手研究者の会等の推進（「研究部会活動報告」の通り）
- 8) 日本農学会，日本農業工学会，農業環境工学系学会連盟，日本地球惑星科学連合の活動を推進，日本学術会議関連の活動に協力，日本学術会議ニュースの学会員への配信
- (1) 関連学協会委員
 - 日本農学会 荊木康臣（会員），植山秀紀（運営委員）
 - 日本農業工学会 真木太一（名誉顧問），大政謙次（名誉顧問），荊木康臣（理事），彦坂晶子（正会員代議員），松田 怜（正会員代議員），吉本真由美（国際会員代議員）
 - 農業環境工学系学会連盟 富士原和宏（委員），荊木康臣（委員）
 - 日本地球惑星科学連合 荊木康臣（学会長会議員），岩田拓記（窓口委員）
 - 地理関連学会連合 西森基貴
- 9) 他学会・団体とのシンポジウム・会議の共催・協賛・後援等を推進
 - (1) 生態工学会：2025 生態工学会年次大会（2025年7月4日～5日，柏の葉カンファレンスセンター）を協賛
 - (2) 日本生物環境工学会：日本生物環境工学会公開シンポジウム「Speaking Plant Approach 2.0～農業生産現場実装と学術の次なる挑戦～」（2025年9月16日，愛媛大学農学部）を協賛
 - (3) 日本流体力学会：日本流体力学会年会 2024（2025年9月17日～19日，大阪公立大学中百舌鳥キャンパス）を後援
 - (4) 日本学術会議農学委員会地域総合農学分科会：日本学術会議公開シンポジウム「人口 10 万人地方自治体における第一次産業の多様な貢献」（2026年1月8日，オンライン開催）を後援
- 10) 2026 年全国大会（筑波大学つくばキャンパス春日エリア）の企画
- 11) その他
 - (1) 学会ホームページの学会案内に寄付のページを設け、これまでの寄付者のうち希望があった方の氏名を掲載した。
 - (2) 真木太一名誉会員からの寄付の使途報告を「生物と気象」25 巻 60～62 ページに掲載した。

1.1.5 編集委員会活動報告

- 1) 編集委員会および編集理事会の開催
 - 編集委員会(英文誌・和文誌合同:2年に一度開催)
 - 2025年3月13日，全国大会@熊本で開催
 - 英文誌 編集委員会
 - 第1回 2025年3月14日，全国大会@熊本で開催
 - 第2回 2025年11月26日，オンライン会議
 - 英文誌 編集理事会
 - 第1回 2025年2月27日，オンライン会議
 - 第2回 2025年5月22日，オンライン会議
 - 第3回 2025年8月29日，オンライン会議
 - 第4回 2025年11月20日，オンライン会議
 - 和文誌 編集委員会
 - 2025年3月14日，全国大会@熊本で開催
 - その他，email 等による審議を適宜実施
- 2) 「Journal of Agricultural Meteorology」，「生物と気象」の発行
 - 「Journal of Agricultural Meteorology」81 巻 1～4 号
 - Full paper 18 編(9)，Short paper 6 編(1)，Review 0 編(0)，Research note 0 編(0)
 - 「生物と気象」25 巻 1～4 号

研究論文 2 編(-1), 短報 0 編(-1), 総説 0 編(0), 資料 0 編(0), 記事 23 編(-1)
※括弧内は 2024 年度と比較した増減数

3) その他

- (1) 2024 年分の JAM の Impact factor は 1.1 であった(2023 年分, 1.4)。
- (2) 学術著作権協会(JAC)委託表示について, 旧様式を新様式に更新し(2025 年 7 月号～), 学会 HP の記載も順次整備した。
- (3) 公開促進費事業として, Special collection 「Horticultural engineering toward efficient and sustainable plant production」の Full paper 4 編を発行した。
- (4) 公開促進費事業として, 若手会員による投稿論文補助, Special Issue 募集, Review 論文募集, 著名研究者の渡航援助募集を行った。
- (5) 昨年度に DOAJ 登録を再申請したが, Endogeny(編集関係者割合)が DOAJ の基準を上回ったため不採択となり, 申請を取り下げた。
- (6) 奨励賞と JAM 誌論文賞ならびに日本学術振興会賞の各 1 名の受賞者、および永年功労会員 1 名からの寄稿を、それぞれ会員の声として掲載した。
- (7) 2024 年全国大会実行委員および学会本部次世代活性化担当理事の共著による、大会期間中の高校生イベントに関する寄稿を会員の声として掲載した。
- (8) JAM 誌 80 巻 4 号および 81 巻 1-3 号に掲載された英文の要旨を和訳し、「生物と気象」25 巻 1～4 号に掲載した。
- (9) 「生物と気象」第 1～6 巻のオンライン化については、西村膳写堂での原稿スキャン作業が終了した。2026 年の上半期にホームページ掲載の予定である。

1.1.6 学会賞の選考経過

2025 年 7 月 17 日, 会員 ML およびホームページ上で 2025 年度日本農業気象学会賞の候補者および候補論文の募集を開始するとともに推薦を依頼した。2025 年 9 月 5 日に推薦を締め切り, 正会員および編集委員会から推薦があった候補者および候補論文を学会賞審査委員会で審査した。2025 年 12 月 6 日付で, 学会賞審査委員長より学会長あてに審査経過書と審査書、別途報告書が提出され, 2025 年 12 月 25 日に開催の第 4 回理事会で審議した。貢献賞については審議後、理事会で無記名投票による採決を行った。その結果, 下記の会員および論文の受賞が決定した(賞種別に 50 音順。授賞理由は別紙 1)。

学術賞：伊川浩樹 会員

「微気象環境計測とモデリングに基づく大気—生態系相互作用に関する研究」

学術賞：木村玲二 会員

「農業気象学的アプローチによる乾燥地の観測・モデリング・モニタリングと土地管理・砂漠化対策への展開」

学術賞：安武大輔 会員

「作物生産における養水分・炭素動態プロセスの評価と最適化に関する研究」

論文賞：大橋雄太 会員、石井雅久 会員、林真紀夫 会員他の共著論文

「Development of a method for evaluating heat insulation capacity of breathable thermal screens for greenhouses using a hot-box with heat balance analysis」 (*J. Agric. Meteorol.*, 2024, 80(2): 62–68)

論文賞：吉田龍平 会員他の共著論文

「Climate-induced risk assessment of future rice production value in the Tohoku and Kyushu regions, Japan」 (*J. Agric. Meteorol.*, 2024, 80(4): 99–110)

奨励賞：能城太一 会員

「Comparisons of different sample air-drying systems for carbon dioxide flux measurements based on eddy covariance in cold environments」

貢献賞：真木太一 会員

「日本農業気象学会等の運営、国際シンポジウムの開催・運営、農業気象・気象環境学関連の出版活動を通じた日本農業気象学会の発展への貢献」

1.1.7 永年功労会員表彰の選考経過

2025年7月17日に会員MLおよびホームページ上で永年功労会員表彰の募集を開始するとともに推薦を依頼した。2025年9月5日に推薦を締め切り、支部推薦として以下3名の会員について推薦書が提出された。2025年12月25日の第4回理事会において表彰が決定した（表彰理由は別紙2）。

北海道支部推薦：鮫島良次 会員

関東甲信越支部推薦：宮田明 会員

中四国支部推薦：山本晴彦 会員

1.1.8 フェロー称号授与

該当なし

1.1.9 支部活動報告

| 支部名・支部長 | 事務局もしくは連絡先 | 研究会・講演会・出版物 | 会員 (2024年12月31日現在) |
|----------------------|---|--|--|
| 北海道支部 支部長：高木健太郎 | 〒060-8559 札幌市北区北9条西9丁目 北海道大学大学院農学研究院 地域環境学分野 岡田啓嗣 jojo(at)agr.hokudai.ac.jp Tel: 011-706-2569 | <ul style="list-style-type: none"> ・第74回総会 (2025年12月10日～17日, web 審議) ・北海道支部大会 (第80回研究発表会：14題, 公開講演会：「『日本の気候変動2025』からみる北海道の気候のゆくえ」札幌管区気象台 桜井敏之)：開催地：札幌市 (北海道大学), 開催日：2025年12月10日 ・「北海道の農業気象」第77号発行 | 正会員：33 学生・ポスドク会員：7 シルバー会員：5 購読会員：2 賛助会員：2 名誉会員：0 合計：49 |
| 東北支部 支部長：松嶋卯月 | 〒020-0198 盛岡市下厨川字赤平4 国立研究開発法人 農業・食品産業技術研究機構 東北農業研究センター 大久保 さゆり agmet_tohoku(at)ml.affrc.go.jp Tel: 019-643-3461 | <ul style="list-style-type: none"> ・東北支部大会 (研究発表6題, 特別講演1題, 総会, エクスカージョン), 2025年8月21日～22日, TKP ガーデンシティ PREMIUM 仙台西口, 参加者18名) ・「東北の農業気象」第69号発行 | 正会員：37 学生・ポスドク会員：3 シルバー会員：2 購読会員：7 賛助会員：1 名誉会員：1 合計：51 |
| 関東甲信越支部 支部長：長谷川利拡 | 〒305-8604 茨城県つくば市観音台3-1-3 国立研究開発法人 農業・食品産業技術研究機構 農業環境研究部門 滝本貴弘 office(at)agmet-kanto.jp Tel: 029-838-8206 | <ul style="list-style-type: none"> ・支部例会 (研究発表)：2025年11月13日, 山梨大学にて開催 ・支部総会：2026年1月15日～29日, web アンケートツールにて実施 | 正会員：168 学生・ポスドク会員：17 シルバー会員：10 購読会員：30 賛助会員：13 名誉会員：7 合計：245 |
| 東海・北陸支部 支部長：嶋津光鑑 | 〒422-8526 静岡市駿河区谷田52-1 静岡県立大学食品栄養科学部 増井昇 nmasui(at)u-shizuoka-ken.ac.jp Tel: 054-264-5739 | <ul style="list-style-type: none"> ・支部大会 (研究発表, 総会)：2025年12月12日, 岐阜県岐阜市文化センターにて開催 | 正会員：23 学生・ポスドク会員：7 シルバー会員：1 購読会員：5 賛助会員：0 名誉会員：0 合計：36 |
| 近畿支部 支部長：町村 尚 | 〒599 8531 堺市中区学園町1-1 大阪公立大学農学研究科 植山雅仁 mueyama(at)omu.ac.jp Tel: 072-254-9432 | <ul style="list-style-type: none"> ・支部大会 (一般研究発表)：2025年11月29日, 大阪工業大学で実施 ・「日本農業気象学会近畿支部大会講演論文集」, 第16号発行 | 正会員：28 学生・ポスドク会員：2 シルバー会員：3 購読会員：4 賛助会員：2 名誉会員：0 合計：39 |
| 中国・四国支部 支部長：森 牧人 | 〒783-8502 高知県南国市物部乙200 高知大学 IoP 共創センター 野村浩一 jm-koichi.nomura(at)kochi-u.ac.jp Tel: 088-864-5152 | <ul style="list-style-type: none"> ・支部大会 (研究発表, シンポジウム, 総会)：2025年11月27日～11月28日, 四国大学交流プラザ (徳島市) にて開催 ・「中国・四国の農業気象」第38号発行 | 正会員：40 学生・ポスドク会員：8 シルバー会員：3 購読会員：3 賛助会員：1 名誉会員：0 合計：55 |
| 九州支部 支部長：柴田昇平 | 〒802-0395 福岡市西区元岡744 九州大学農学研究院環境農学部門生産環境科学講座気象環境学 安武大輔 yasutake(at)bpes.kyushu-u.ac.jp Tel: 092-802-4627 | <ul style="list-style-type: none"> ・支部大会 (研究発表, セミナー, 座談会, 施設見学, 総会)：2025年11月5-6日, 長崎県農林技術開発センター果樹・茶研究部門にて開催 ・「九州の農業気象第II輯」第34号発行 | 正会員：29 学生・ポスドク会員：4 シルバー会員：4 購読会員：9 賛助会員：1 名誉会員：1 合計：48 |

1.1.10 研究部会活動報告

| 部会名・部会長 | 事務局・幹事 | 研究会・講演会・出版物 |
|---------------------------------------|--|---|
| 園芸工学研究部会 部会長：松田 伶 設立：2006年6月 | 〒270-1194 千葉県我孫子市我孫子 1646 電力中央研究所 グリッドイノベーション研究本部 地子智浩 TEL: 070-5085-3697 Email : jishi(at)criepi.denken.or.jp | <ul style="list-style-type: none"> 日本農業気象学会 2025年全国大会において、オーガナイズドセッション「Controlled Environment Agriculture の課題と展望 -国際的な視点から-」を主催した。 Journal of Agricultural Meteorology 誌にて、Special collection 「Horticultural engineering toward efficient and sustainable plant production」を出版した。 |
| 技術開発・普及研究部会 部会長：小沢 聖 設立：2024年7月 | 〒819-0395 福岡市西区元岡 744 九州大学農学研究院 環境農学部門生産環境科学講座気象環境学 広田知良 TEL: 092-802-4629 Email : hirota(at)agr.kyushu-u.ac.jp | <ul style="list-style-type: none"> オンラインでの研究会を3回開催 全国大会研究部会で「技術普及を考える座談会」を実施 |
| 若手研究者の会 | 〒270-1194 千葉県我孫子市我孫子 1646 電力中央研究所 グリッドイノベーション研究本部 地子智浩 TEL: 070-5085-3697 Email : jishi(at)criepi.denken.or.jp 野村 浩一（高知大学） 岩崎 千沙（農研機構 農業情報研究センター） | <ul style="list-style-type: none"> 日本農業気象学会 2025年全国大会において、若手会セミナー「研究における生成 AI の有効活用」を実施した。 ホームページの管理・運営を継続した。 (http://www.agrmet.jp/wakate/)。 メーリングリストの管理・運営を継続した。 |

1.2 その他

2. 審議事項

2.1 2025年度一般会計決算報告（案）

2025年度一般会計決算(案)

2025年12月31日現在

(単位: 円)

| 科目 | 予算 | 決算 | 備考 |
|---------------|------------------|------------------|---------------------|
| 1. 収入 | | | |
| 学会費 | 4,025,500 | 4,166,228 | |
| 正会員 | 2,745,500 | 2,863,228 | 281件 |
| 正会員(終身会費納入済) | 0 | 0 | |
| シルバー会員 | 150,000 | 165,000 | 29件 |
| 学生・ポスドク会員 | 80,000 | 118,000 | 51件 |
| 購読会員 | 480,000 | 480,000 | 58件 |
| 賛助会員 | 570,000 | 540,000 | 18件 |
| 名誉会員 | 0 | 0 | |
| 海外特別会員 | 0 | 0 | |
| 寄贈 | 0 | 0 | |
| 売上金 | 1,739,000 | 2,328,815 | |
| 掲載料・別刷・超過頁等 | 1,739,000 | 2,326,815 | |
| バックナンバー等 | 0 | 2,000 | |
| 雑益 | 72,158 | 476,018 | |
| 利息 | 240 | 22,473 | 三井住友銀行定期預金 |
| 複写権料等 | 71,918 | 75,399 | |
| 学会基金取崩収入 | 0 | 0 | |
| その他 | 0 | 378,146 | 2025年度全国大会実行委員会から返金 |
| 単年度合計 | 5,836,658 | 6,971,061 | |
| 前年度繰越金 | 4,834,179 | 4,834,179 | |
| 合計 | 5,836,658 | 6,971,061 | |

| 科目 | 予算 | 決算 | 備考 |
|--------------------|------------------|------------------|---|
| 2. 支出 | | | |
| 学会誌発行業務 | 3,714,000 | 3,435,898 | 「JAM」・「生物と気象」 81-1.81-2.81-3.81-4.25-1.25-2.25-3.25-4(科研費補助1,223,700円) |
| 印刷・製本・別刷り費 | 2,690,000 | 2,622,050 | |
| 発送費 | 215,000 | 240,348 | |
| 編集費 | 583,000 | 463,500 | 農業気象J-stage、査読等 |
| 編集委員会経費 | 100,000 | 0 | 旅費・事務費等 |
| J-stage査読システム | 66,000 | 66,000 | システム利用料 |
| トムソロイタ社 アップロード | 44,000 | 44,000 | 11,000円×4号(81-1.81-2.81-3.81-4) |
| 英文校閲費 | 16,000 | 0 | |
| 学会大会費 | 400,000 | 400,000 | |
| 全国大会運営費 | 400,000 | 400,000 | 2026年度大会準備金 |
| 農業環境工学関連5学会合同大会運営費 | 0 | 0 | 今年度開催予定なし |
| 学会賞費 | 50,000 | 0 | |
| 記念品・交通費等 | 50,000 | 0 | 永年功労会員・奨励賞・論文賞記念品 |
| 名誉会員表彰費 | 0 | 0 | |
| 懇親会費・交通費等 | 0 | 0 | |
| 会計業務委託費 | 1,451,000 | 1,479,820 | |
| 会員業務 | 398,000 | 382,476 | 会員管理費560円/552件・郵送料等 |
| 会計業務 | 264,000 | 264,000 | 月額20,000円×12 |
| 受付業務 | 198,000 | 198,000 | 月額15,000円×12 |
| その他業務 | 591,000 | 635,344 | 連絡用紙・封筒・案内状作成等 |
| ウェブサイト運営費 | 40,000 | 39,600 | |
| 学会ウェブサイト維持費 | 20,000 | 19,800 | サーバーおよびドメイン管理費等(アプライド) |
| 学会誌ウェブサイト維持費 | 20,000 | 19,800 | サーバーおよびドメイン管理費等(アプライド) |
| 事務費 | 90,000 | 76,903 | |
| 総務理事経費 | 20,000 | 0 | |
| 庶務理事経費 | 30,000 | 34,634 | Zoom Workplace使用料 |
| 会計理事経費 | 40,000 | 42,269 | 振込手数料、ゆうちょBiz利用料、消耗品費 |
| 支部・研究・渡航補助費 | 460,800 | 360,800 | |
| 支部補助費 | 310,800 | 310,800 | 700円/444件 |
| 若手研究者の会補助費 | 50,000 | 50,000 | |
| 渡航費補助 | 100,000 | 0 | |
| 関係団体分担金 | 132,400 | 139,900 | |
| 日本地球惑星科学連合 | 10,000 | 10,000 | 団体会員会費 |
| 日本農学会会費 | 57,400 | 52,900 | 分担金 |
| 日本農業工学会会費 | 65,000 | 65,000 | 正会員会費 |
| 日本農業工学会賞費 | | 12,000 | フェロ-祝賀会参加費(菅野洋光会員) |
| 会計関連調査費 | 300,000 | 97,818 | |
| 調査費 | 300,000 | 97,818 | |
| 単年度支出 | 6,638,200 | 6,030,739 | |
| 予備費 | 634,000 | 0 | 支出の約10%相当を予算計上、執行なし |
| 合計 | 7,272,200 | 6,030,739 | |

| | 予算 | 決算 |
|---------|------------|-----------|
| 単年度収入合計 | 5,836,658 | 6,971,061 |
| 単年度支出合計 | 7,272,200 | 6,030,739 |
| 単年度収支差異 | -1,435,542 | 940,322 |
| 前年度繰越金 | 4,834,179 | 4,834,179 |
| 剰余金 | 3,398,637 | 5,774,501 |

2025年度次世代活性化基金決算(案)

2025年12月31日現在

(単位: 円)

| 科目 | 予算 | 決算 | 備考 |
|--------------|----------------|----------------|----|
| 1. 収入 | | | |
| 単年度合計 | 0 | 0 | |
| 前年度繰越 | 131,099 | 131,099 | |
| 合計 | 131,099 | 131,099 | |

| 科目 | 予算 | 決算 | 備考 |
|--------------|---------------|---------------|----|
| 2. 支出 | | | |
| 参加賞・大会ポスター賞等 | 80,000 | 25,561 | |
| 予備費 | 0 | 0 | |
| 単年度支出 | 80,000 | 25,561 | |
| 合計 | 80,000 | 25,561 | |

2025年度貸借対照表(案)

2025年12月31日現在

(単位:円)

| 資産の部 | | | 負債の部 | | |
|---------------|--------|-------------------|--------------------|-----------|-------------------|
| 科目 | | 金額 | 科目 | | 金額 |
| 普通預金 | 三井住友銀行 | 0 | 未払金 | 西村謄写堂 | 2,851,262 |
| 普通預金(無利子) | 高知銀行 | 7,793,401 | | 科学技術振興機構 | 66,000 |
| 振替貯金 | ゆうちょ銀行 | 5,366,314 | | ウェブサイト運営費 | 39,600 |
| 定期預金 | 三井住友銀行 | 14,132,205 | | 会計理事経費 | 6,118 |
| | | | | | |
| | | | 負債の部合計 | | 2,962,980 |
| | | | 正味財産の部 | | |
| | | | 科目 | | 金額 |
| | | | 学会基金 | | 3,675,830 |
| | | | 事業準備金 | | 11,300,000 |
| | | | 終身会員制度等準備金 | | 3,604,170 |
| | | | 当期剰余金* | | 5,748,940 |
| | | | 正味財産の部合計 | | 24,328,940 |
| 資産の部合計 | | 27,291,920 | 負債・正味財産の部合計 | | 27,291,920 |

*一般会計による剰余金5,774,501円から2025年度次世代活性化基金からの支出25,561円を差し引いた額。

2025年度学会基金異動（案）

- (1) 2023年度総会決議に基づき新設された終身会費制度等準備金について、「厚生労働省令和7年度簡易生命表」に基づく本年度の計算結果より、3,029,400円と算定されたことから、574,770(3,604,170-3,029,400)円を学会基金に戻すことを提案する。
- (2) この結果、学会基金は4,250,600円、事業準備金は11,300,000円、終身会費制度等準備金は3,029,400円となる。

2025年度基本金会計

(単位:円)

| 科目 | 予算 | 備考 |
|------------|------------|------------------|
| 学会基金 | 4,250,600 | |
| 事業準備金 | 11,300,000 | |
| 終身会費制度等準備金 | 3,029,400 | 2023年度総会決議に基づき新設 |
| 合計 | 18,580,000 | |

2025年度剰余金処分（案）

- (1) 2025年度剰余金は、5,774,501円となった。
- (2) 2025年度剰余金から学会基金への繰入は行わない。
- (3) この結果、学会基金は4,250,600円、事業準備金は11,300,000円、終身会員制度等準備金は3,029,400円、一般会計繰越金は5,774,501円となる。

2.2 2024年度特別会計決算報告(案)

2024年度科研費特別会計決算(案)

(単位:円)

| 1. 収入 | | |
|-----------|-----------|--------------|
| 科目 | 予算 | 備考 |
| 科学研究費助成事業 | 3,500,000 | 課題番号23HP2004 |
| 単年度合計 | 3,500,000 | |
| 前年度繰越金 | 0 | |
| 合計 | 3,500,000 | |

| 2. 支出 | | |
|-----------|-----------|---|
| 科目 | 予算 | 備考 |
| 物品費 | 10,509 | 資料保存のためのクリアファイル |
| 設備備品費 | 0 | |
| 消耗品費 | 10,509 | |
| 人件費・謝金 | 0 | |
| 人件費 | 0 | |
| 謝金 | 0 | |
| 旅費 | 382,120 | |
| 旅費 | 382,120 | 編集理事会に係る旅費(3名) |
| その他 | 1,729,960 | |
| 外注費 | 1,729,360 | JAM80(3,4), 81(1,2)の発行経費 掲載論文WEBテキスト公開経費 |
| 印刷製本費 | 0 | |
| 会議費 | 0 | |
| 通信運搬費 | 600 | レターパックによる会計資料郵送 |
| 光熱水料 | 0 | |
| JSPSへの返還金 | 1,377,411 | |
| 単年度支出 | 3,500,000 | |
| 予備費 | 0 | |
| 合計 | 3,500,000 | |

| | |
|---------|-----------|
| 単年度収入合計 | 3,500,000 |
| 単年度支出合計 | 3,500,000 |
| 単年度収支差異 | 0 |
| 前年度繰越金 | 0 |
| 剰余金 | 0 |

当該事業の交付決定額および補助条件の範囲内において科目ごとの増減を行う場合がある。

2.3 会計監査報告（案）

2026年2月25日

会計監査報告

日本農業気象学会
会長 荊木 康臣 殿

日本農業気象学会

監査 松浦 庄司 

監査 深山 貴文 

日本農業気象学会 2025 年度（2025 年 1 月 1 日～2025 年 12 月 31 日）一般会計予算および次世代活性化基金予算の執行に関し、伊川浩樹会計理事および藤内直道会計理事より提出された会計書類に基づいて監査を実施した。その結果、帳簿類は正確に記載され、誤りなく出納されていることを確認したことから、当該予算が適正に執行されていたものと認める。

以上

2026年2月25日

会計監査報告

日本農業気象学会
会長 荻木 康臣 殿

日本農業気象学会

監査 松浦 庄司 

監査 深山 貴文 

日本農業気象学会 2024 年度科研費特別会計予算（2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日）の執行に関し、伊川浩樹会計理事より提出された会計書類に基づいて監査を実施した。その結果、帳簿類は正確に記載され、誤りなく出納されていることを確認したことから、当該予算が適正に執行されていたものと認める。

以上

2.4 2026年度事業計画（案）

2.4.1 事業計画

- 1) 学会活動の活性化
 - (1) 会員数維持および学生会員獲得のための方策の検討および実施
 - (2) 広報活動の促進のための方策の検討および実施
 - (3) 学会誌の今後の方向性に関する検討
- 2) 2026年全国大会および International Symposium on Agricultural Meteorology (ISAM) 2026 の開催：2026年3月17日～19日に筑波大学つくばキャンパス春日エリアにて開催
- 3) 2026年度総会の開催：2026年3月6日にオンラインで開催
- 4) 2025年度理事会の開催：オンライン、および対面とオンラインのハイブリッド
- 5) 学術誌「Journal of Agricultural Meteorology」の発行（第82巻1号～第82巻4号）
- 6) 学術誌「生物と気象」の発行（第26巻1号～第26巻4号）
- 7) 日本農業気象学会賞の審査および表彰
- 8) 日本農業気象学会永年功労会員の審査および表彰
- 9) フェローの称号の審査および授与
- 10) 日本農学賞等の候補者の推薦
- 11) 支部活動の推進（「支部活動予定（案）」の通り）
- 12) 研究部会および若手研究者の会の活動の推進（「研究部会活動予定（案）」の通り）
- 13) 日本農学会の活動を推進
- 14) 日本農業工学会の活動を推進
- 15) 農業環境工学系学会連盟の活動を推進
- 16) 日本学術会議関連の活動に協力
- 17) 日本地球惑星科学連合の活動を推進
- 18) 地理関連学会連合の活動に協力
- 19) 他学会・団体とのシンポジウム・会議の共催・協賛・後援等を推進
- 20) 受託研究の受け入れ
- 21) 国際会議出席者の推薦，国際研究交流，国際連携の推進
- 22) 次世代活性化のための事業の検討（次世代活性化基金による活動）
- 23) 科研費研究成果公開促進費に係る事業の推進
- 24) その他，本学会の目的達成のための各種事業の推進

2.4.2 2026年度以降の学会活動に関わる事項

1) 全国大会の実施体制について

2025年第2回、第3回、第4回理事会での議論を経て、今後の全国大会の実施体制について以下の方針を決定した。支部への影響が大きいため今回、総会において周知する。

- (1) 2027年以降の全国大会の運営を、従来のように開催支部のみで行うのではなく、本部と支部とで協力して行う方式に変更する。
- (2) この変更に伴い、開催支部を主体として組織された大会実行委員会の全国大会会計を本部会計に含める。
- (3) 2027年全国大会（東海・北陸支部）では、大会実行委員会を、本部関連理事（全国大会担当理事および研究交流活性化担当理事）、本部選出委員、および大会開催支部選出委員（以後、支部選出委員）で組織する。本部選出委員と支部選出委員は概ね同数ずつとする。
- (4) 本部選出委員は、大会開催支部以外の支部所属の会員から、支部長の推薦等に基づいて選出する。任期は2年程度とする。
- (5) 支部選出委員は、従来どおり大会を開催する支部所属の会員の中から選出する。
- (6) 2028年以降の全国大会では、2027年全国大会の運営結果等をふまえ、必要な見直しを行う。

2) 寄付金取扱規程の策定

2025年度総会での会員からの意見を受け、2025年第2回理事会において寄付金取扱規程を策定することを決定した。会則の改正にあたり今回、総会に諮る。

会則の改正案

| 変更前 | 変更後 |
|--|--|
| 第9章 会計 第22条（経費）本学会の運営経費は会費、その他の収入をもってあてる。 | 第9章 会計 第22条（経費）本学会の運営経費は会費、 <u>個人又は団体より受領した寄付、その他の収入</u> をもってあてる。 |
| 第10章 付則 第26条（施行期日） この会則は2023年度から施行する。 | 第10章 付則 第26条（施行期日） この会則は <u>2026年度</u> から施行する。 |

寄付金取扱規程の策定案

| 策定前 | 策定後 |
|-----|---|
| | <p><u>会則第9章第22条、第2章第5条に基づき本規程を設ける。</u></p> <p><u>（寄付金）</u></p> <p><u>1 本学会は個人又は団体より寄付金を受領することができる。</u></p> <p><u>2 前項の寄付金について寄付者から資金使途及び寄付金の管理運用方法について条件が付されているときは、その受領には理事会の承認を得なければならない。</u></p> <p><u>3 寄付金が下記各号に該当する場合若しくはそのおそれがある場合には、当該寄付金を辞退しなければならない。</u></p> <p>① <u>寄付金の受け入れに起因して、本学会が著しく資金的あるいは労力的負担が生ずる場合</u></p> <p>② <u>前号に掲げる場合のほか、本学会の事業の遂行上支障があると認められるもの及び本学会が受け入れるには社会通念上不適當と認められる場合</u></p> <p><u>（受領書等の送付）</u></p> <p><u>4 寄付金を受領したときは、遅滞なく礼状、受領書を寄付者に送付するものとする。</u></p> <p><u>5 前項の受領書には、本学会の事業に関連する寄付金である旨、寄付金額及びその受領年月日を記載するものとする。</u></p> <p><u>（募金に係る結果の報告）</u></p> <p><u>6 本学会は、寄付金の大部分の支出が完了したときは、当該寄付金の収支に係る収支決算書及び当該支出による効果などを記載した報告書を寄付者に送付するものとする。ただし、学会誌への掲載またはホームページ上の公開に代えることができる。</u></p> <p><u>7 寄付者が希望する場合、寄付者の氏名及</u></p> |

| | |
|--|---|
| | <u>び寄付金額をホームページ上に掲載する。</u> <u>掲載する場合には寄付金の受領証の送付から1年間以内に行う。</u> (付則)本規程は2026年度から適用する。 |
|--|---|

(参考)

第2章 事業

第5条 (事業)

本学会はその目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- (1) 農業気象についての研究会、講演会および談話会などの開催
- (2) 学術誌「Journal of Agricultural Meteorology (農業気象)」および「生物と気象 (英文名 Climate in Biosphere)」の発行
- (3) 日本農業気象学会賞の授与
- (4) 日本農学会の構成学会としての諸事業
- (5) 永年功労会員の表彰
- (6) フェローの称号の授与
- (7) その他必要と認める事業

3) 次世代活性化基金の清算と一般会計への組み込み

2018年度に真木太一会員からご寄付頂いた100万円のうち、70万円を原資として設立された次世代活性化基金については、2025年12月31日時点の繰越金が105,538円(約10万円)である。2026年度において全額の使用を見込んでいるが、剰余金が生じた場合には、2025年度第4回理事会での審議に基づき2027年度一般会計の収入として計上する。

2.5 支部活動予定（案）

| 支部名・支部長 | 事務局もしくは連絡先 | 研究会・講演会・出版物・その他活動 | 会員（2025年12月31日現在） |
|----------------------|--|---|--|
| 北海道支部 支部長：高木健太郎 | 〒060-8559 札幌市北区北9条西9丁目 北海道大学大学院農学研究院 地域環境学分野 岡田啓嗣 jojo(at)agr.hokudai.ac.jp Tel: 011-706-2569 | <ul style="list-style-type: none"> 北海道支部大会（研究発表，シンポジウム，総会）：開催地，日時は未定 「北海道の農業気象」第78号発行予定 | 正会員：29 学生・ポスドク：8 シルバー：5 購読：2 賛助：2 名誉：0 合計：46 |
| 東北支部 支部長：松嶋卯月 | 〒020-0198 盛岡市下厨川字赤平4 国立研究開発法人 農業・食品産業技術研究機構 東北農業研究センター 大久保さゆり agmet_tohoku(at)ml.affrc.go.jp Tel: 019-643-3461 | <ul style="list-style-type: none"> 東北支部大会（研究発表，総会）：岩手県にて開催予定、日時は未定 「東北の農業気象」第70号発行予定 | 正会員：34 学生・ポスドク：3 シルバー：2 購読：7 賛助：1 名誉：1 合計：48 |
| 関東甲信越支部 支部長：長谷川利拡 | 〒305-8604 つくば市観音台3-1-3 農研機構 農業環境研究部門 木村建介 office(at)agrmnet-kanto.jp Tel: 029-838-8946 | <ul style="list-style-type: none"> 支部例会（研究発表）：2026年11月頃に都内会議室にて開催の予定 支部総会：2026年10月頃にwebアンケートツールにて実施の予定 | 正会員：163 学生・ポスドク：17 シルバー：12 購読：30 賛助：13 名誉：7 合計：242 |
| 東海・北陸支部 支部長：嶋津光鑑 | 〒422-8526 静岡市駿河区谷田52-1 静岡県立大学食品栄養科学部 環境生命科学科植物環境研究室 増井昇 nmasui(at)u-shizuoka-ken.ac.jp Tel: 054-264-5739 | <ul style="list-style-type: none"> 東海・北陸支部大会（研究発表，総会）：2026年11月-12月に愛知県で開催予定 | 正会員：23 学生・ポスドク：5 シルバー：1 購読：5 賛助：0 名誉：0 合計：34 |
| 近畿支部 支部長：町村尚 | 〒599-8531 堺市中区学園町1-1 大阪公立大学生農学研究科 植山雅仁 mueyama(at)omu.ac.jp Tel: 072-254-9432 | <ul style="list-style-type: none"> 支部大会(一般研究発表，総会など)：2026年11～12月，開催地等未定 「日本農業気象学会近畿支部大会講演論文集」，第17号発行予定 | 正会員：27 学生・ポスドク：6 シルバー：6 購読：3 賛助：1 名誉：0 合計：43 |
| 中国・四国支部 支部長：森 牧人 | 〒783-8502 高知県南国市物部乙200 高知大学 IoP 共創センター 野村浩一 jm-koichi.nomura(at)kochi-u.ac.jp Tel:088-864-5152 | <ul style="list-style-type: none"> 支部大会（研究発表，シンポジウム，総会）：2026年11月に松江市にて開催予定 「中国・四国の農業気象」第39号発行予定 | 正会員：43 学生・ポスドク：8 シルバー：3 購読：3 賛助：1 名誉：0 合計：58 |
| 九州支部 支部長：柴田昇平 | 〒802-0395 福岡市西区元岡744 ウェスト5号館 九州大学大学院農学研究院環境農学部門 安武大輔 yasutake(at)bpes.kyushu-u.ac.jp Tel: 092-802-4627 | <ul style="list-style-type: none"> 支部大会（研究発表，セミナー・シンポジウム，座談会，総会）：2026年11月5日（木）～6日（金），宮崎県総合農業試験場にて開催予定 「九州の農業気象第II輯」第35号発行予定 | 正会員：27 学生・ポスドク：7 シルバー：5 購読：9 賛助：1 名誉：1 合計：50 |

2.6 研究部会活動予定（案）

| 部会名・部会長 | 事務局・幹事 | 研究会・講演会・出版物・その他活動 |
|---------------------------------------|--|--|
| 園芸工学研究部会 部会長：松田 伶 設立：2006年6月 | 〒270-1194 千葉県我孫子市我孫子 1646 電力中央研究所 グリッドイノベーション研究本部 地子智浩 TEL: 070-5085-3697 Email : jishi(at)criepi.denken.or.jp | <ul style="list-style-type: none"> 日本農業気象学会 2026 年全国大会において、オーガナイズドセッション「施設園芸の持続可能性と園芸工学」を主催する。 |
| 技術開発・普及研究部会 部会長：小沢 聖 設立：2024年7月 | 〒819-0395 福岡市西区元岡 744 九州大学農学研究院環境農学部門生産環境科学講座気象環境学 広田知良 TEL: 092-802-4629 Email : hirota(at)agr.kyushu-u.ac.jp | <ul style="list-style-type: none"> オンラインでの研究会を数回開催 全国大会研究部会で「技術普及を考える座談会」を実施 |
| 若手研究者の会 | 〒270-1194 千葉県我孫子市我孫子 1646 電力中央研究所 グリッドイノベーション研究本部 地子智浩 TEL: 070-5085-3697 Email : jishi(at)criepi.denken.or.jp 野村浩一（高知大学） 岩崎千沙（農研機構 農業情報研究センター） | <ul style="list-style-type: none"> 日本農業気象学会 2026 年全国大会において、若手会セミナー「研究も生活も快適に：研究環境づくりと働き方のヒント」を企画している。 ホームページの管理・運営 (http://www.agrmet.jp/wakate/)。 メーリングリストの管理・運営。 |

2.7 2026年度一般会計予算(案)

2026年度一般会計予算(案)

(単位:円)

| 1.収入 | 科目 | 予算 | 備考 |
|---------------|--------------|-------------------|-------------------|
| 学会費 | | 4,097,500 | 人数・件数は当年度当初 |
| | 正会員 | 2,796,500 | 8,500円×329名 |
| | 正会員(終身会費納入済) | 0 | 0円×14名 |
| | シルバー会員 | 165,000 | 5,000円×33名 |
| | 学生・ポストドク会員 | 110,000 | 2,000円×55名 |
| | 購読会員 | 456,000 | 8,000円×57件 |
| | 賛助会員 | 570,000 | 30,000円×19件 |
| | 名誉会員 | 0 | 0円×9名 |
| | 海外特別会員 | 0 | 0円×71件 |
| | 寄贈 | 0 | 0円×20件 |
| 売上金 | | 1,819,000 | |
| | 掲載料・別刷・超過頁等 | 1,819,000 | 直近3年度実績 |
| 雑益 | | 97,872 | |
| | 利息 | 22,473 | 前年度実績 |
| | 複写権料等 | 75,399 | 2025年度分として通知のあった額 |
| | 学会基金取崩収入 | 0 | |
| | その他 | 0 | |
| 単年度合計 | | 6,014,372 | ① |
| 前年度繰越金 | | 5,774,501 | ② |
| 合計 | | 11,788,873 | |

| 2.支出 | 科目 | 予算 | 備考 |
|---------------------|-------------------|------------------|----------------------------------|
| 学会誌発行業務 | | 3,502,000 | ※1 |
| | 印刷・製本・別刷り費 | 2,533,000 | 「JAM」・「生物と気象」 直近3年度実績に余裕分5%加算 |
| | 発送費 | 226,000 | 直近3年度実績に余裕分5%加算 |
| | 編集費 | 517,000 | 直近3年度実績 |
| | 編集委員会経費 | 100,000 | 旅費・「生物と気象」オンライン化費 |
| | J-stage査読システム | 66,000 | システム利用料 |
| | トヨタレンタリース社777シート | 44,000 | 11,000円×4号 |
| | 英文校閲費 | 16,000 | |
| 学会大会費 | | 500,000 | |
| | 全国大会運営費 | 400,000 | 2026年度大会準備金 |
| | 農業環境工学関連学会合同大会運営費 | 100,000 | |
| 学会賞費 | | 50,000 | 記念品等 |
| 名誉会員表彰費 | | 0 | 懇親会費・交通費等、今年度予定なし |
| 事務委託費 | | 1,451,000 | 契約および前年度実績による |
| | 会員管理業務 | 398,000 | 会員管理費560円×537件+税・会誌発送料等 |
| | 会計業務 | 264,000 | 月額20,000円×12月+税 |
| | 受付業務 | 198,000 | 月額15,000円×12月+税 |
| | その他業務 | 591,000 | 連絡用紙・封筒・案内状作成等 |
| ウェブサイト運営費 | | 40,000 | |
| | 学会ウェブサイト維持費 | 20,000 | サーバーおよびドメイン管理費等 |
| | 学会誌(JAM)ウェブサイト維持費 | 20,000 | サーバーおよびドメイン管理費等 |
| 事務費 | | 290,000 | |
| | 理事会開催費 | 200,000 | 交通費補助等 |
| | 総務理事経費 | 10,000 | 郵送料、事務雑費、総会経費等 |
| | 庶務理事経費 | 40,000 | 事務雑費、オンライン会議・総会経費等 |
| | 会計理事経費 | 40,000 | 振込手数料等 |
| 支部・研究・渡航補助費 | | 460,800 | |
| | 支部補助費 | 310,800 | 700円×444人(前年度末の国内個人会員数) |
| | 若手研究者の会補助費 | 50,000 | |
| | 渡航費補助 | 100,000 | |
| 関連団体分担金 | | 132,400 | |
| | 日本地球惑星科学連合 | 10,000 | 団体会員会費 |
| | 日本農学会費 | 57,400 | 分担金 |
| | 日本農業工学会費 | 65,000 | 正会員会費 |
| 会計管理関連費 | | 700,000 | ※2 |
| | | 500,000 | 顧問税理士契約費用 |
| | | 200,000 | 顧問税理士契約準備費用 |
| 単年度合計(予備費除く) | | 7,126,200 | ※3 |
| 予備費 | | 712,620 | 予備費を除く支出の約10%相当 |
| 単年度合計(予備費含む) | | 7,838,820 | ③ |

| | | |
|----------------|------------|-------|
| 単年度収入合計 | 6,014,372 | ① |
| 単年度支出合計(予備費含む) | 7,838,820 | ③ |
| 単年度収支差異 | -1,824,448 | ①-③ |
| 前年度繰越金 | 5,774,501 | ② |
| 剰余金 | 3,950,053 | ①-③+② |

※1:学会誌発行業務に係る支出については掲載数量により所要額が変動するため、予算額を超過する支出を行う場合がある。この場合、原則として収入のうち「掲載料・別刷・超過頁等」の増加分を充当する。

※2:会計管理関連費は、基金取崩の対象とするが、前年度繰越金を優先的に使用する。

※3:支出において、予備費を除く範囲内で科目間流用を行う場合がある。

2026年度次世代活性化基金予算(案)

(単位:円)

| 1.収入 | 科目 | 予算 | 備考 |
|--------------|----|----------------|----|
| 単年度合計 | | 0 | |
| 前年度繰越 | | 105,538 | |
| 合計 | | 105,538 | |

| 2.支出 | 科目 | 予算 | 備考 |
|---------------------|----|----------------|----|
| 参加賞・大会ポスター賞等 | | 105,538 | |
| 単年度支出 | | 105,538 | ※4 |
| 予備費 | | 0 | |
| 合計 | | 105,538 | |

※4:剰余金が発生した場合は次年度一般会計の収入として計上する。

2.8 2026年度特別会計予算（案）

2026年度科研費特別会計予算（案）

(単位:円)

| 1. 収入 | | |
|-----------|-----------|--------------|
| 科目 | 予算 | 備考 |
| 科学研究費助成事業 | 3,700,000 | 課題番号23HP2004 |
| 単年度合計 | 3,700,000 | |
| 前年度繰越金 | 0 | |
| 合計 | 3,700,000 | |

| 2. 支出 | | |
|----------|-----------|---|
| 科目 | 予算 | 備考 |
| 物品費 | 150,000 | 国際情報発信力の強化を行うための取組（査読審査、編集、出版及び電子ジャーナルでの流通等）に必要となる物品費 |
| 設備備品費 | 0 | |
| 消耗品費 | 150,000 | シンポジウム開催等に要する消耗品 |
| 旅費 | 1,400,000 | 当該刊行物の編集委員会開催に係る旅費・国内・海外の研究者を招へいに係る旅費 |
| 旅費 | 1,400,000 | 業務打ち合わせ・研究者の招へい |
| その他 | 2,150,000 | 当該事業の遂行に係る経費（例：国際シンポジウムにおけるブース出展等、対象となる学術刊行物のプロモーション活動経費、欧文校閲費、当該刊行物の電子化関連経費） |
| 外注費 | 2,000,000 | 依頼・特集論文発行費100万、XML公開経費100万 |
| 会議費 | 0 | |
| 通信運搬費 | 0 | |
| その他(諸経費) | 150,000 | 会計事務経費等（振込手数料等） |
| 単年度支出 | 3,700,000 | |
| 予備費 | 0 | |
| 合計 | 3,700,000 | |

| | |
|---------|-----------|
| 単年度収入合計 | 3,700,000 |
| 単年度支出合計 | 3,700,000 |
| 単年度収支差異 | 0 |
| 前年度繰越金 | 0 |
| 剰余金 | 0 |

当該事業の交付決定額および補助条件の範囲内において科目ごとの増減を行う場合がある。

学会賞の選考

- 学術賞：(3件) 伊川浩樹 会員、木村玲二 会員、安武大輔 会員
 論文賞：(2件) 大橋雄太 会員を代表とする全4名(うち会員3名)の共著論文、
 吉田龍平 会員を代表とする全3名(うち会員1名)の共著論文
 奨励賞：(1件) 能城太一 会員
 貢献賞：(1件) 真木太一 会員

学術賞：伊川浩樹 会員

「微気象環境計測とモデリングに基づく大気—生態系相互作用に関する研究」

国内の水田から湖、海洋沿岸、亜寒帯林までの多様な生態系を研究対象とし、現場における微気象環境計測に基軸を置いて熱収支・光合成モデルを援用し、海氷融解時の大気～海洋 CO₂ 交換、融雪の微気象学的メカニズム、CO₂ 濃度上昇による水田の光合成と蒸発散など、農業気象学分野における学術的問題の解明に、多くの優れた研究成果を上げてきた。これらは、気候変動下における大気—生態系相互作用の変動とその影響に関する重要な知見を示していることから、学術的に価値の高い研究成果であると評価できる。これらの研究は、国際的に著名な学術誌に発表されており、農業気象学分野の国際的発展にも大きく寄与していると評価できる。また、微気象環境計測とモデリング技術を統合する先導的な研究を精力的に展開しており、若手研究者の育成に対しても大きく貢献した。

学術賞：木村玲二 会員

「農業気象学的アプローチによる乾燥地の観測・モデリング・モニタリングと土地管理・砂漠化対策への展開」

中国、モンゴル、エジプト、トルコなどの乾燥地を対象とし、圃場～流域・地域スケールで熱・水収支の観点から定量的な砂漠化リスク評価を行い、土地劣化の衛星モニタリング手法を開発し、農業気象学の砂漠化対処への応用を通じて適切な土地管理や砂漠化危険度評価に関する多くの優れた研究成果を上げてきた。本モニタリング手法は、乾燥地において植林による緑化が可能な潜在森林面積の評価や草原維持計画の策定などに活用されており、人工衛星による継続的な乾燥地モニタリングによる砂漠化への対処に大きく貢献しており、応用的・実用的な学術価値を有する研究成果であると評価できる。これらの研究の一部は、多くの他の研究論文に引用されており、農業気象学分野の国際的発展にも大きく寄与していると評価できる。また、本学会における乾燥地研究を牽引し、若手研究者の育成に対しても大きく貢献した。

学術賞：安武大輔 会員

「作物生産における養水分・炭素動態プロセスの評価と最適化に関する研究」

農業気象学および環境制御学に関する基礎的な知識に基づき、作物生産における養水分・炭素動態の評価・解明・最適化に向けて、独自の開発を含む多様な手法を用いて一連の研究を器官～個体～群落にわたる広いスケールで体系的に展開し、多くの優れた研究成果を上げてきた。これらは、作物生産性の向上に加えて、気候変動に対する適応策および緩和策としても機能し得るため、応用的・実用的な学術価値を有する研究成果であると評価できる。これらの研究を通して得られた成果は、国際的に著名な学術誌に発表されている。これに加えて、周辺学問分野への寄与や、それら研究分野を含む若手研究者の育成にも大きく貢献した。

論文賞：大橋雄太 会員、石井雅久 会員、林 真紀夫 会員他の共著論文

「Development of a method for evaluating heat insulation capacity of breathable thermal screens for greenhouses using a hot-box with heat balance analysis」 (*J. Agric. Meteorol.*, 2024, 80(2): 62–68)

農業用温室におけるエネルギー効率を向上させることは、温室の経営コスト削減と温暖化緩和策の両面で重要である。この目的で、温室用保温カーテンはエネルギーコストを抑えるための重要な資材である。本論文は、アルミニウムとポリエステルの2タイプの温室用保温カーテンを対象とし、それぞれの熱的特性(放射・対流・熱伝導・換気)を実験的かつ理論的に明らかにして温室のエネルギー

効率を評価することにより、その利点を機能させつつ保温効果を高める資材を探索するための評価手法を開発した。本論文の成果を応用することで、換気など本来の機能を発揮させつつ保温効果を高めるカーテン資材を探索し実用化することにより、温室のエネルギー効率を向上させるとともに経営コストを削減し、脱カーボン社会にも貢献すると期待される。

論文賞：吉田龍平 会員他の共著論文

「Climate-induced risk assessment of future rice production value in the Tohoku and Kyushu regions, Japan」
(*J. Agric. Meteorol.*, 2024, 80(4): 99–110)

食料生産の将来予測は、農業気象分野の中で非常に重要な分野である。本論文は、東北産ひとめぼれと九州産ヒノヒカリの収量、一等米比率、生産額に対する気温上昇の影響を評価した。本論文の独創性は、一等米の生産量を考慮することで経済的な効果を加味し、気候変動がコメの生産に及ぼす影響を評価したことである。すなわち本論文は、日本の水田農業における気候変動に対する適応策の観点で、リスクアセスメントとしての社会的意義を有し、本学会が科学的なデータをもって社会に貢献する研究として評価できる。

奨励賞：能城太一 会員

「Comparisons of different sample air-drying systems for carbon dioxide flux measurements based on eddy covariance in cold environments」

受賞対象の原著論文「Comparisons of different sample air-drying systems for carbon dioxide flux measurements based on eddy covariance in cold environments」(*J. Agric. Meteorol.*, 2024, 80(1): 22–28)において、寒冷環境(CO₂フラックスが小さい条件)でのクローズドパス赤外線分析計を用いた渦相関法による高精度なCO₂フラックス計測を目的として、メンブレンドライヤーを用いた除湿による水蒸気変動の除去が有効であることを示し、当環境における長期観測の実現に向けた有益な技術的知見を提供した。さらに、現在受賞者は、本論文で提案したシステムの実用性を極地海水域で検証するため、北極域研究加速プロジェクト・若手人材海外派遣プログラムに参画し、カナダ・ケンブリッジベイ近海をフィールドとする国際共同研究の推進にも大きく寄与しつつある。

貢献賞：真木太一 会員

「日本農業気象学会等の運営、国際シンポジウムの開催・運営、農業気象・気象環境学関連の出版活動を通じた日本農業気象学会の発展への貢献」

日本農業気象学会等の運営、国際シンポジウムの開催・運営、農業気象・気象環境学関連の出版活動を通じて、日本農業気象学会の発展に貢献した。2001年から2期にわたる日本農業気象学会会長に加え、関連学協会役員として日本農業工学会会長を1期および日本学術会議会員を2期務め、学界における日本農業気象学会のプレゼンスを高めた。さらに、農業環境工学関連4学会2004年合同大会の大会委員長、同時に開催された国際シンポジウム International Symposium on Food Production and Environmental Conservation of Global Environmental Deterioration (FPEC)の組織委員長を務めた。また、2011年に開催された国際農業工学会(CIGR)国際シンポジウムの組織委員長・実行委員長を務め、東日本大震災直後の状況下で国際的な学術交流を成功に導いた。出版活動に関しても、「新編農業気象学用語解説集」をはじめ、多くの農業気象・気象環境学関連の出版事業に編集委員長および著者として先導的な役割を果たし、農業気象学と関連専門分野における学術的発展に大きく寄与した。

永年功労会員表彰の選考

北海道支部推薦：鮫島良次 会員

関東甲信越支部推薦：宮田明 会員

中四国支部推薦：山本晴彦 会員

北海道支部推薦：鮫島良次 会員

日本農業気象学会（本部）の評議員、編集委員、副編集委員長、永年功労賞審査委員、さらに北海道支部の支部長を務め学会の発展に多大な貢献をした。冷害対策や栽培管理、気象データの利活用に関する多くの研究を手掛け、2009年には「大豆の気象生態反応のモデル化とそれを利用した生産管理支援情報の開発および水稲・小麦への応用」について本会の学術賞を受賞した。

関東甲信越支部推薦：宮田明 会員

本部評議員、本部理事、学会賞および永年功労会員の審査委員を歴任し学会運営に尽力した。また、関東甲信越支部長も務めるなど支部活動の発展にも貢献した。大気-表面間の微量気体フラックスの観測に取り組んだ。乱流フラックスデータの品質管理や座標変換、誤差評価など長期連続観測の基盤となる研究を行った。フラックス観測の最初期から現在まで、第一人者として研究分野をリードしてきた。

中四国支部推薦：山本晴彦 会員

光による作物センシングや農業気象災害に関する研究などで、農業気象学の発展に大きく寄与し、2017年には「光応用による植物の診断と制御に関する研究とその普及」で農業気象学会賞普及賞を受賞した。中国四国支部長をはじめ、支部役員を長年務めたことに加え、全国大会の大会委員長など、支部活動への貢献も大きい。評議員、編集委員、学会賞審査委員などの本部役員も歴任し、本部への貢献も非常に大きい。